

実践のまとめ（第6学年 外国語科）

新発田市立川東小学校 教諭 富樫 俊紀

1 研究テーマ

書くことが楽しいと思う子どもの育成 ～「話す・聞く」と「書く」を結びつける活動を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

日々の実践を振り返ると、学習した英単語を何度も聞かせ、言わせて、多くの単語が言えるようにしたり、既得の英単語を頼りに聞こえた単語や文の意味を推測させたり、「聞くこと」と「話すこと」、特に「聞くこと」に重点を置いて指導していたことに気付いた。また、「読むこと」についても、聞いたことを基に意味を推測させたり、音声と文字を結びつけさせたりして指導していた。その一方で、「書くこと」については、「聞くこと」「話すこと」とは切り離して考え、書いてあることを書き写すだけになってしまっていた。その結果、児童は楽しみながら単語や英文を聞いたり話したりすることができているが、英文を書く活動になるとうまく書くことができず、英文を書くことを「難しい」と感じている。

本研究では、これまで切り離して考えていた「話す・聞く」と「書く」を結びつける活動を設定し、児童が得意である音声による表現と、苦手さを感じている文字との結びつけを行うことによって達成感を味わわせ、「書くこと」が楽しいと思う児童の育成を目指す。

(2) 研究テーマに迫るために

① 必然性のある自分の思いや考えを表現する場面（単元のゴール）の設定

単元導入時に、教師とALTのデモンストレーションを見せたり、意味を推測させたりすることによって、単元のゴールを明確にしたり、見通しをもたせたりすることができる。また、絵日記を見せる相手（ALT、栗島浦小）を設定することで、英文を「書く」ことに必然性がある場面設定を行うことができる。

② ワークシートの工夫

ワークシートを、「日本語から英語」「全文をなぞる」「主語と動詞のみをなぞる」「主語のみをなぞる」「書き写し」など細かく段階的に分けて作成し、児童にあったレベルで何度も取り組ませることにより、書くことへの抵抗感を減らすとともに、書くことの経験を増やすことができる。「自分が伝えたいことを書くことができた」という経験を増やすことで、児童の達成感を高めることができる。と考える。

③ ICT機器の活用

ALTの夏休みの思い出を動画で撮影し、音声を何度も確認できるようにしたり、音声付きの単語帳を作り、単語の読みを確認できるようにしたりすることで、音声と文字の結びつけの強化が期待できる。

(3) 研究テーマに関わる評価

① 単元の終末でのアンケートで、「書くことが楽しい」と答える児童が80%以上
(アンケート)

② 振り返りシートで、「書くことができた」「書き方が分かった」記述がある児童が80%以上 (振り返りシート)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Lesson3 I went to Hawaii. (CROWN Jr. 三省堂)

(2) 単元(題材)の目標

- 夏休みの思い出について、例文を参考にしながら自分に合うように文を書き写したり並べ替えたりして、簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。

【書くこと(イ)】

(3) 単元の評価規準(書くこと)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> 過去に行ったことを表す表現(went, saw, ate, enjoyed)について理解している。</p> <p><技能> 夏休みの思い出や出来事など、過去のことについて、書く技能を身に付けている。</p>	<p>夏休みの思い出についてALTや粟島浦小学校に絵日記で伝えるために、見たものや行った場所、食べた物や楽しかったことなどについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書いている。</p>	<p>夏休みの思い出についてALTや粟島浦小学校に絵日記で伝えるために、見たものや行った場所、食べた物や楽しかったことなどについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書こうとしている。</p>

(4) 単元の指導計画と評価計画(全7時間、本時6/7時間)

次(時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法 (評価方法は【 】内で記述する。)
1 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 教師とALTの夏休みの思い出を聞き、内容を推測しながら聞き、単元のゴールを知る。 どこへ行ったか伝える語句や表現を知る。 食べたものを伝える語句や表現を知る。 見たものを伝える語句や表現を知る。 楽しんだことを伝える語句や表現を知る。 	<p>◎夏休みに行ったところを友達に伝えよう。</p> <p>◎夏休みに食べたものを友達に伝えよう。</p> <p>◎夏休みに見たものを友達に伝えよう。</p> <p>◎夏休みに楽しんだことを友達に伝えよう。</p>	<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
2 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの思い出について、3～4文程度で友達に伝える。 	<p>◎夏休みの思い出を友達に伝えよう。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の夏休みの思い出を書き写している。(本時) ・ALTに夏休みの思い出について伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎夏休みの思い出を絵日記で表そう。(本時) ◎フェ先生に夏休みの思い出を伝えよう。 	<p>思考・判断・表現</p> <p>夏休みの思い出について、過去を表す表現を使って書いている。【ワークシート】</p> <p>態度</p> <p>自分が伝えたいことに合わせて、単語や語順、内容を考えて書こうとしている。【行動観察・ワークシート】</p> <p>知識・技能</p> <p>過去を表す表現を使って、書いたり話したりしている。【行動観察】</p>
時間外	・絵日記を栗島浦小に送る。		

4 単元（題材）と児童（生徒）

(1) 単元について

本単元では、児童が夏休みの思い出をALTに紹介する。夏休みの思い出というテーマは、記憶によく残っており、児童にとって表現しやすいものであると考えられる。また、「夏休み」という、児童にとって過去のことを扱うため、ターゲットとなる「過去形」の表現も受け入れやすいと考える。主として、「went」「ate」「saw」「enjoyed」であるが、児童の実態に応じて、他の単語を個別で補い、児童一人一人の思い出を表現できるようにし、「書きたい」という思いをもって学びに向かわせたい。

指導計画の1次では、教師とALTの夏休みの思い出を、意味を推測しながら聞くことによって、「聞こえた」という達成感を味わわせるとともに、単元のゴールである姿を明確に示す。ALTの話と教科書を結びつけ、「聞くこと」「話すこと」を中心としながら、「過去形」の表現を学習する。繰り返し聞いたり言ったりする機会を設定し、これから使う表現に慣れ親しませたい。2次では、1次で学習したことを活用して、夏休みの思い出について書いたり、話したりする。授業でのスモールトークで過去形を何度も使わせたり、課題やキャリアタイムを通して文字の練習を何度も繰り返したりして、音声と文字に慣れ親しませる。その上で、段階別のワークシートを何度も書きながら、書いたことを話すというサイクルを繰り返すことによって、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の結びつけを目指す。

(2) 児童（生徒）の実態（計29名）

外国語の授業に対しては、比較的前向きな児童が多い。チャントや体を動かす活動に意欲的に取り組むことができる。その一方で、外国語だけに留まらず、どの教科でも「書くこと」が苦手と感じる児童が多い。事前のテストでは、アルファベットの大文字を全て正確に書くことができる児童は63%、アルファベットの小文字を全て正確に書くことができるのは38%であったことから、文字に対する苦手が見える。本単元では、ゴールを「書きたいこ

とを書き写す」ことに設定し、書く前に繰り返し聞かせたり言わせたりして慣れ親しませ、ワークシートやICTを活用しながら視覚的にも英語を捉えられるようにするとともに、キャリアタイムや宿題等でも、繰り返しアルファベットや英文を書く機会を設定し、文字への抵抗が無くなっていくよう配慮する。本単元を通して、楽しかった思いをのせて、夏休みの思い出について書くことができるようになるとともに、正確に書くことができるアルファベットの数を少しでも増やすことができることを目指す。

5 本時の展開 (令和4年10月3日実施)

(1) ねらい

夏休みの思い出について、友達と話したり聞いたりすることを通して、自分が伝えたいことを明確にし、伝えたい順番を考え、自分の夏休みの思い出を書き写すことができる。

(2) 展開の構想

① ワークシートの工夫について

本時では、伝えたいことを英語で表す場面で、主語と動詞のみ記入、主語のみ記入、4線のみ3種類のワークシートを準備しておき、児童のレベルに合わせて使用できるようにする。加えて、絵日記のカードを準備し、書き写すことができるようにする。

② ICTの活用について

夏休みの思い出についてのメモをタブレットで整理しておき、伝えたいことを英語で表す場面で確認しながら書けるようにする。また読み方を音声で何度も確認できるようにする。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	○教師の働き掛け ●予想される児童(生徒)の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ワードチャントで動作等の単語を復習する。 ・サイコロトークで過去形を復習する。 ・学習課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつをする。 ○ワードチャントを流す。 ○今日のお題を決定する。 ○学習内容を確認する。 ●学習課題を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇サイコロを振り、お題を決定する。 ◇出だしの言葉を確認する。
<学習課題>夏休みの思い出を絵日記で表そう。			
5	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と夏休みの思い出を話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○メモを確認しながら、もう一度友達に夏休みの思い出を話してみよう。 ●I went to Tokyo Disney Land. I saw a beautiful parade. I ate popcorns. I enjoyed riding some attractions. 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ワークシートを確認させる。 ◇時間を設けて、何度も挑戦するよう促す。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの思い出を英文で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今話した夏休みの思い出を書いてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇複数のワークシートを準備する。

3	・ 英文の順番を確かめる。	●メモを基に、例文を参考にして書き写す。 ○伝えたい順番で、ワークシートに番号を書きましょう。	○書き終わった児童は、先生や友達にワークシートを持って話しに行かせる。
12	・ 伝えたい順番で英文を書く。	○できた英文を伝えたい順番で4線紙に書き写しましょう。	□自分の夏休みの思い出を書き写している。(ワークシート) 思考・判断・表現
8	・ ふりかえりを記入する。	○この時間の振り返りを記入しましょう。	

(4) 評価

A評価：伝えたい内容を、伝えたい順番で工夫して英文を書き写している。

B評価：伝えたい内容を英文で書き写している。

C評価：B評価に到達していない。

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

① A L TのTeacher Talkから単元のゴールの姿を知り、必要な表現を考え、練習する。

まず、A L Tの夏休みの思い出を聞き、「夏休みの思い出について絵日記でA L Tと栗島浦小学校の皆さんに紹介する」という単元のゴールを設定した。紹介する内容と相手、手段について、実物を示しながら具体的に共有した。

次に、A L TのTeacher Talkを録画しておいたものを見て、繰り返し聞き取ったり、言ったりして、過去形を捉えた。児童は、写真と動画（音声）を頼りに、過去形を捉えることができた。また、実際に自分が経験をしたことを表現する活動では、異なる内容でも同じ言語材料を使いながら何度も伝える練習をし、ターゲットとなる表現や単語に慣れ親しんだ。

② 夏休みのことについて、友達に話して伝えたり書き写したりして、絵日記を書く。

自分自身の夏休みの思い出について、前時まで学習した表現から自分で選んだ表現を使って、友達に繰り返し口頭で伝えることで、表現に慣れ親しんだ。また、ワークシートにそれぞれの夏休みの思い出について書き写す活動を実施し、書き写した後も繰り返し友達と話して、さらに表現に慣れ親しむことができた。

絵日記を書く前に、A L Tと担任が単語のアドバイスをしたり、タブレット端末の翻訳アプリを活用するよう促したりして、できるだけ英語の単語で書くことができるように指導した。

③ A L Tと栗島浦小学校の皆さんに夏休みの思い出を伝える。

絵日記を作成後、一人一人がA L Tにその絵日記を見せながら、自分の夏休みの思い出を伝えた。伝えるときには、日記に書いた英文を読まずに、そのとき自分の伝えたいことを考えながら話すようにした。

栗島浦小学校の皆さんへは、当初オンラインでの交流を予定していたが、日程が合わず、絵日記を送付し、外国語の授業の際に紹介していただき、読んだ感想や栗島浦小の皆さんの夏休みについて教えていただいた。

(2) 研究テーマについて

研究テーマに関わる評価

- ① 単元の終末でのアンケートで、「書くことが楽しい」と答える児童が80%以上
- ② 振り返りシートで、「書くことができた」「書き方が分かった」記述がある児童が80%以上

① 単元の終末のアンケートで、「書くことが楽しい」と答える児童が80%以上

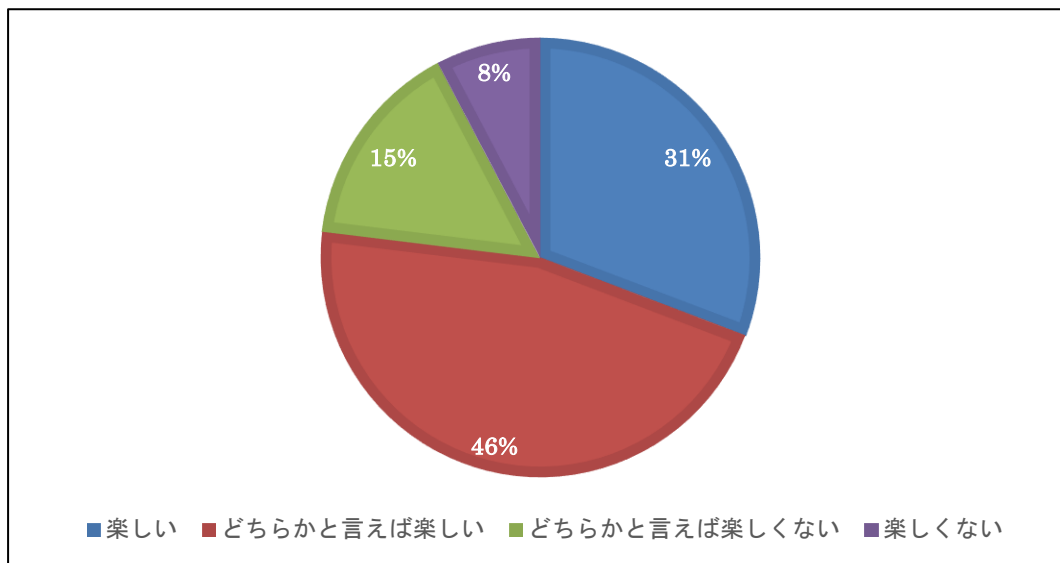


図1 英語を書く活動は楽しいですか

アンケートでは、「書くこと」の他にも、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」も項目に入れた。また、選択肢としては、「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」「どちらかと言えば楽しくない」「楽しくない」を設定した。

「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と肯定的評価をした児童は77%であった（図1）。目標とする数値には届かなかったが、7割を超える児童が「書くこと」に対して肯定的な評価をしていた。ターゲットとなる表現を、内容を変えて繰り返し聞いたり話したりして慣れ親しみ、表現したいことを書き写したことが、自分が書きたいことを書くことができたという達成感につながり、「書くことが楽しい」と感じることができたのだと考える。

② 振り返りシートで、「書くことができた」「書き方が分かった」記述がある児童が80%以上

振り返りシートでは、「書くことができた」「書き方が分かった」という記述の有無を評価の基準とした。また、「文字を書くことができた」ではなく、「伝えたい内容を書くことができた」としているかも加味した。

結果は、肯定的評価が78%であった。目標とする数値にはあと一步届かなかったが、「自分が伝えたいこと（夏休みの出来事）を書くことができた」と記述している児童が多く、自分が伝えたいことを書くことができていたことが分かった。言語活動を通して繰り返し

返し表現を練習したことが、「自分の伝えたいことを表現できた」という児童の実感につながったのではないかと推測できる。また、本時では、「祭り」を「festival」と書いた児童と「matsuri」と書いた児童が混在していた。事後に児童と「相手に伝えるときにはどちらが良いか」を視点として考え、「festival」に統一することにした。児童は、自分たちも「festival」と言われれば「祭り」を思い浮かべることができるから、きっと相手も「festival」で伝わるだろうと判断することができた。

「文字（アルファベット）をきれいに書くことができた」とする記述も多く見られた。絵日記を見せる相手を明確に設定したことによって、相手に伝わるようにするにはどんな字で書いたら良いか考えながら書いていることが分かった。

(3) 成果と今後の課題

学習指導要領解説では、「自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。」としている。また、小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックでは、「『書くこと』においても、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり書いたりする、という順序性を踏まえることは必須である。」としている。また、児童のアンケートの結果、振り返りの結果からも「話す・聞く」を十分に実施した上で「書くこと」に結びつけるという順序性を踏まえることで、児童の達成感を高め、「書くこと」の楽しさを感じることができると分かった。

一方で、一部の児童にとっては、その順序性だけでは不十分であり、補助的な手立てが必要であると感じた。例えば、宿題で英単語をなぞる練習をしたり、帯活動で文字と音声を結びつける活動をしたりといったことである。児童の実態に合わせて補助的な活動を行い、児童の達成感を更に高めていきたい。

加えて、必然性のある自分の思いや考えを表現する場面を設定することで、目の前にいない他者に対して配慮しながら書くことができると分かった。英語を書こうとすると、分からない単語を辞書等で調べて、難しい単語や表現をそのまま書いてしてしまうことがある。伝える内容、相手を明確にすることで、内容だけでなく、使用する単語や表現についても検討することができた。単元を通して、伝える内容、相手を意識する場面を繰り返し設定することが重要であると考え。相手のことについて考え、書いたものが相手に伝わったと実感することによって、児童が達成感をより高めていくと考える。

今回の実践で得た成果を「書くこと」に限定するのではなく、他の技能にも応用していきたい。

<参考・引用文献>

- 文部科学省.『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』.開隆堂.2017
- 文部科学省.『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』.旺文社.2017